

平成26年10月27日



た・・・たくましく

か・・・かしこく

み・・・みんなやさしく

発行 北九州市立高見小学校

校長 原 田 直 久

平成26年度の全国学力・学習状況調査の結果の報告と 今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

今、本市では、「家庭学習チャレンジハンドブック」、「家庭学習マイスター賞」など、学力向上に向けての家庭学習の充実が推進されています。今後とも、本市教育へのご協力をお願いいたします。

1 教科に関する調査結果から

① 学力調査結果

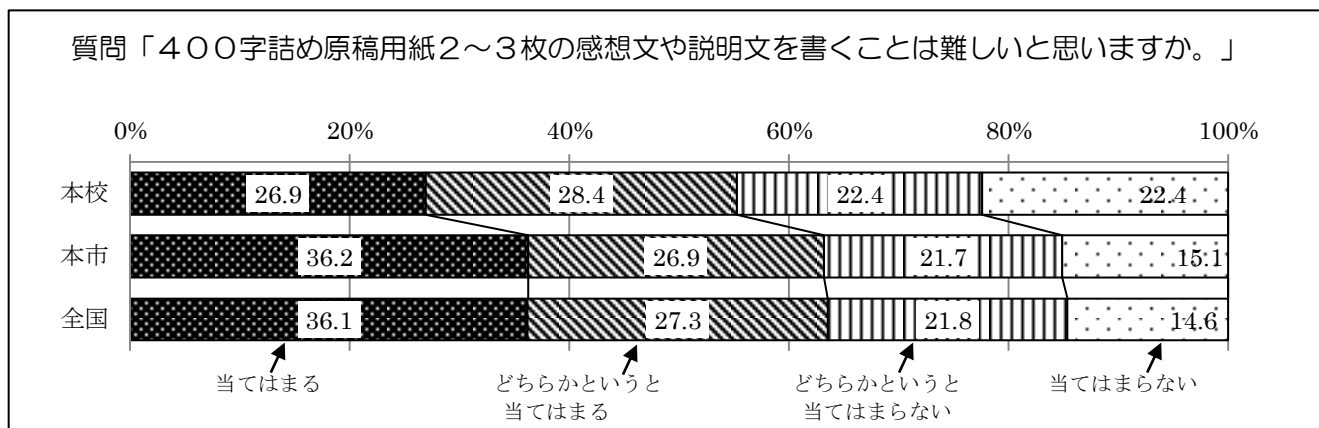
カテゴリー	学力調査の内容	全国との平均との比較
国語A	国語に関する、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容、及び、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能を問う内容	全国平均正答率を上回っている
国語B	国語に関する、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力、及び、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力を問う内容	全国平均正答率を上回っている
数学A	算数に関する、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容、及び、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能を問う内容	全国平均正答率を上回っている
数学B	算数に関する、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力、及び、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力を問う内容	全国平均正答率を上回っている

全カテゴリー、全国の平均正答率を上回っていました。

また、文章段落の構成の仕方や接続詞の使い方、ことわざ、漢字の理解、基本的な計算や図形の仕組みについて問う「A問題」よりも、様々な情報から必要な情報を取り出したり、複雑な計算を解いたりする「B問題」の正答率が高いという傾向が見られました。

② 学校における学習状況に関する調査結果から

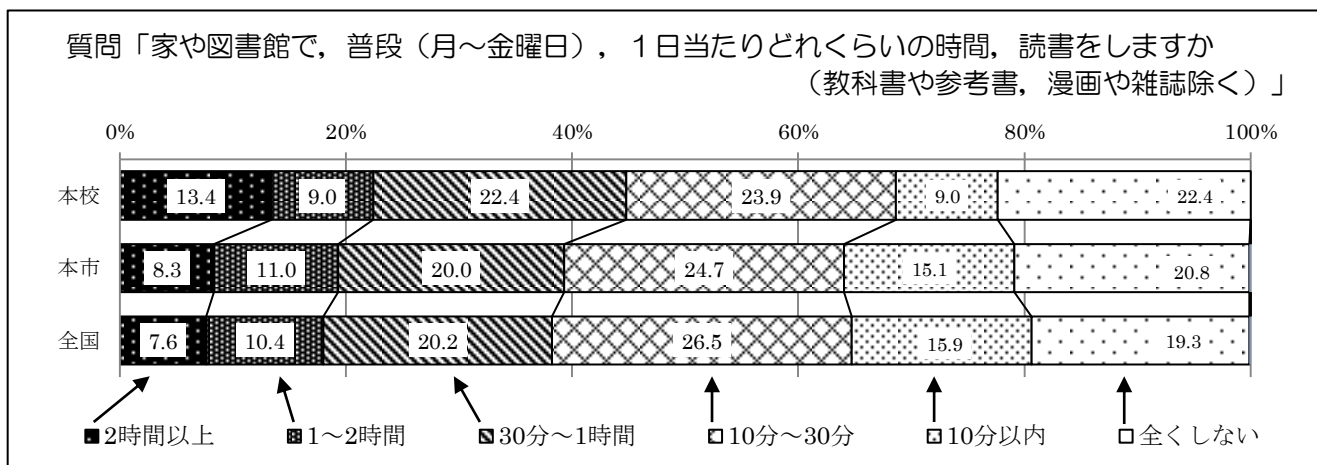
学力調査とともに、学習状況に関するアンケートも実施しました。その際、本校の今後の学力向上に向けて参考になる項目の結果について紹介します。



学力調査の結果は全国平均を上回っているのに対し、「文章を書く力」については苦手意識をもっている児童が多いことが、上のグラフからうかがえます。文章を書く機会を増やし、書くことへの抵抗感をなくすなど、書く力の向上を図っていく必要があると考えています。

2 家庭学習に関する調査結果から

学習状況に関するアンケートの中には、家庭での学習状況に関する質問もありました。その中で、特徴的な項目について紹介します。



全国や本市の平均と比べ、読書量が多いのが本校（6年生）の特徴だということが見取れます。読書は、国語の力を高めるだけではなく、様々な考え方や生き方を学ぶ機会にもなります。ぜひ、今後も読書を進んで行ってほしいと思っています。

3 高見小での今後の学力向上についての取組

① 教科に関する取組

- 算数での少人数学習や個別指導の充実を図ります。
- 本市教育委員会が作成したアシストシート（国語・算数の問題プリント）を使い、基礎的・基本的な学力の向上を図ります。
- 学習の最後に、学習したことの振り返りを書くようにし、「書くこと」の習慣化を図ります。

② 家庭での学習習慣づくりについての取組

- 高見中学校と連携し、小学校・中学校における生活や家庭学習のきまりの共通事項を設けます。（現在作成中です。）
- 家庭学習マイスター賞への応募を奨励します。

後日、申し込み要項を配布いたします。ぜひ、応募されてください。